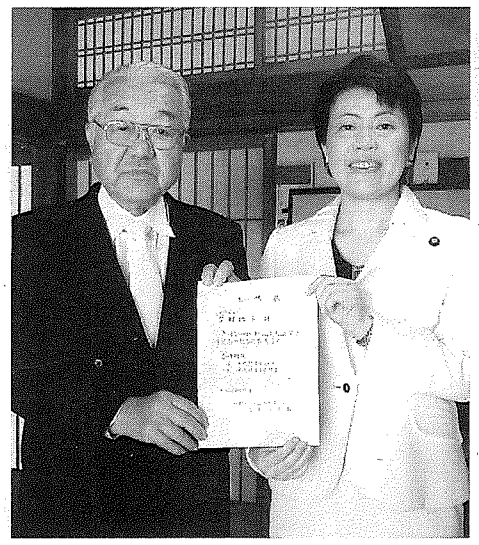
遺族の友

発行所
一般財団法人滋賀県遺族会
滋賀県大津市におの浜4丁目2－34
滋賀県遺族会館
電話　(077)522-7227
FAX　(077)522-7233
発行責任者
滋賀県遺族会長
松井　尚之

有村治子氏 参与に委嘱

平成25年度活動方針・事業計画を承認

滋賀県遺族会では、第186回理事会（平成25年3月）、第187回理事会並びに第42回評議員会（平成25年5月）を開催し、平成25年度の活動方針案と事業計画案、収支予算案、平成24年度の事業報告と収支決算報告などが審議され、全て承認された。また、今年7月に実施される第23回参議院議員通常選挙を間近に控え、永年にわたり日本遺族会の要望事項実現のため、積極的な活動をしてこられた参議院議員の有村治子氏を滋賀県遺族会の参与への委嘱推薦が決定され、松井尚之滋賀県遺族会長から委嘱状が交付された。（広報　田中正彦）



有村治子参議院議員に滋賀県遺族会参与への委嘱状が松井尚之会長から交付された

遺族の処遇向上をめざし、戦没者の妻・父母に対する特別給付金は、平成25年度政府予算案で継続して支給されることとなったが、平成27年に最終償還を迎える特別弔慰金は遺族会の存亡を左右する事柄である。特別弔慰金は、国として戦没者に弔意を表したものであり、国は戦没者を忘れないという証でもある。遺族会組織が動かなければ特別弔慰金の継続はあり得ない。遺族の諸課題を耳にして代弁していただける議員の皆様がおられなければ処遇向上も進まない。7月の参議院議員選挙は、遺族会の要望事項実現のため積極的に活動した候補者へ、一人ひとりの遺族会員が家族を挙げて、地域の組織一体となって支援することが極めて重要である。

■活動方針の概要■

1、英霊顕彰運動

平成24年3月開館した滋賀県平和祈念館のさらなる展示内容など充実化を要望する。また、先の大戦は国家責任の下でなされたものであることと併せて遺族の高齢化、財政危機などにより、県下戦没者追悼式典は滋賀県主催で実施していただくことを要望する。あわせて、知事自らの滋賀県護國神社例大祭や各種慰霊巡拝への参加を働きかけていくこと、さらに、国会議員や県議会議員を通じて英霊に対する顕彰意識を高めていく運動や、過去の大戦に対する自虐史観を払拭し、歴史、伝統、文化など良き固有の精神文化の継承に努めていくこと。

2、次世代育成

会員の高齢化にあって次世代の育成が喫緊の課題であり、日本遺族会の進める「孫・曾孫の会」の組織化への協力と各事業の家族ぐるみの参加を要請していくこと。

3、組織の拡充強化

海外戦跡巡拝等の参加者で、未だ遺族会に入会していない者への遺族会入会促進や、積極的な広報活動、社会奉仕活動の推進をはかること。

九段会館の存続や内閣総理大臣の靖國神社参拝を関係機関に要望すること。

主要事業計画

大津市民会館で初の開催

平和祈念県下戦没者追悼式典

4月5日の滋賀県護國神社例大祭を皮切りとして、滋賀県遺族会の平成25年度主要事業がスタートした。

天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ厳粛かつ盛大に挙行された日本遺族会創立65周年記念式典は昨年9月18日であったが、滋賀県遺族会創立65周年記念の戦没者遺族大会は、今年10月19日守山市民ホールで開催される。10年前の創立55周年記念大会も同ホールで行われており、今回も記念大会に相応しい内容が期待される。

8月2日の平和祈念・県下戦没者追悼式は、式典会場を大津市民会館に移して開催されることとなった。ますます高齢化する式典参列者への酷暑（熱中症予防）対策、県下各市町から参列される福祉バス（大型バス、マイクロバス）の駐車場確保が不能となったこと等々によるものであり、日本武道館の全国戦没者追悼式がイメージされた式典が予想される。

参列者の皆さんには、式典終了後ぜひとも膳所公園へ足を運び「滋賀県英霊塔」への参拝実施も強く望まれる。

鹿児島方面、沖縄方面への次世代戦跡訪問研修は、若い世代が戦争の歴史に直接触れ、戦争の悲惨さや尊い犠牲者が数多くあったことを知り、平和の確立を目指してくれることを念じ、3月の春休みに実施される。この研修を体験した若者たちが滋賀県戦没者遺族大会や女性研修会、さらには県下各市町での平和式典において体験発表し、多くの皆さんに深い感銘を与えており誠に有意義な事業である。なお一層多くの若者の参加が期待される。

滋賀県遺族会の平成25年度主要事業計画は下表のとおり。

平成25年度滋賀県遺族会の主要事業計画

時期	事業名	場所
25年4月5日	滋賀県護國神社春季例大祭	滋賀県護國神社
5月23日	理事会・評議員会	滋賀県遺族会館
6月2日～4日	沖縄「近江の塔」平和祈念・戦没者追悼式	沖縄県
6月22日～24日	第52回沖縄平和祈願リレー行進	沖縄県
8月2日	平和祈念・県下戦没者追悼式	大津市民会館
8月9日	第32回慰霊と平和祈願リレー行進	滋賀県庁・大津市・高島市・長浜市・米原市・彦根市・滋賀県護國神社
8月13日～15日	第37回みたま祭り	滋賀県護國神社
8月15日	全国戦没者追悼式典参列	日本武道館
8月15日	合同会議	滋賀県護國神社
9月29日	第39回遺族会スポーツの集い	竜王町ドラゴンハット
9月下旬	理事会	滋賀県遺族会館
9月下旬	皇子山陸軍墓地、滋賀県英霊塔彼岸法要	大津市皇子山・膳所公園
10月5日	滋賀県護國神社秋季例大祭	滋賀県護國神社
10月5日	高齢者に対し記念品贈呈（基準日を9月15日）	

時期	事業名	場所
10月7日	女性研修会	大津市勤労福祉センター
10月19日	65周年記念滋賀県戦没者遺族大会	守山市民ホール
11月3日～9日	フィリピン戦跡慰霊巡拝と国際親善	フィリピン
12月7日	合同会議	アヤハレークサイドホテル
12月7日	県議会議員との懇談会	アヤハレークサイドホテル
12月中旬	日本遺族会戦没者遺族大会と国会議員陳情運動	自由民主会館
12月31日～	除夜祭、元旦祭	滋賀県護國神社
26年1月上旬	新年祈願祭	滋賀県護國神社
1月11日～19日	パプアニューギニア方面戦跡慰霊巡拝と国際親善	パプアニューギニア方面
1月26日～2月2日	ミャンマー方面戦跡慰霊巡拝と国際親善	ミャンマー方面
3月2日～3日	65周年記念第40回靖國神社参拝旅行	靖國神社、伊東温泉他
3月中旬	理事会	滋賀県遺族会館
3月下旬	次世代戦跡訪問研修	鹿児島県、沖縄県
毎15日	滋賀県英霊塔月並法要、正副会長会議	膳所公園、遺族会館
随時	遺骨収集・戦跡慰霊巡拝写真並びに遺品展	随所
年3回	「遺族の友」発刊（6月・10月・1月）	

台湾・東シナ海方面戦跡慰霊巡拝

御霊のお導きに感謝

台湾・東シナ海方面戦跡慰霊巡拝は1月20日から5泊6日の日程で行われた。台湾各所で慰霊祭を執り行い、参加した18人は各々の思いで献花・般若心経を唱えた。（英霊顕彰委員会　伴　忠信）

滋賀県・滋賀県議会・滋賀県遺族会の合同慰霊祭は、台湾南端の街・墾丁の潮音寺で行われた。式は、岸田孝一団長の式辞・遺児の呼びかけ・滋賀県知事代理の渡邊光春健康福祉部長の追悼の辞・佐野高典滋賀県議会議長のあいさつと続いた。

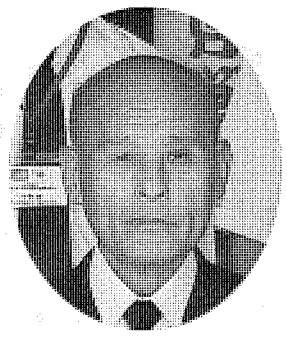
最後に、戦争の悲惨さが身にしみている田中穂積班長が代表して平和の大切さを宣言した。

その後、高雄市の保安堂、台中市の宝覚寺、台北市の林森公園の明石総提督墓所跡など各所で追悼慰霊祭を行った。

台北市林森公園での最後の慰霊祭の後片付け中、親しげに日本語で話しかけてこられた方と少し立ち話をして、慰霊祭の供物を少し添えて、飾ってきた造花を貰っていただいた。

大阪出身の方で、草津に知り合いがいると伺っていたところ、先日メールが届き、林森公園と2基の鳥居と墓碑の詳しい由来が記してあり、草津の2人のお名前、住所もいただいた。内1人は同じ町内の知り合いの方だった。

偶然の重なりとは言え、英霊の皆様からのお導きに感謝し、生まれた絆を大切にしたい。



滋賀県遺族会
副会長　岸田孝一

台湾国最南端墾丁より洋上慰霊にチャーター船で沖合に出るも、ウネリが大きくて手摺りにつかまっての慰霊祭は、身体にしみるものがありました。

その後、元日本兵が戦死された英霊の追悼慰霊をするために建立された潮音寺にて追悼式典をさせていただきました。

小高い丘に建つお寺にはお世話下さる方がおられ、滋賀県知事代理として健康福祉部長渡邊光春様、滋賀県議会からは議長の佐野高典様並びに県会議員の野田藤雄様のご来賓出席のもと、厳粛に行わせていただきました。

次に、高雄市内にある保安堂では赤色の横幕に〝歓迎　日本国　滋賀県遺族会〟と丁寧な出迎えを下さり、なお、台湾及び日本の戦没者をお守り下さっていると聞き、感動、感激、そして感謝の心を頂けました。その時テープで流れる音楽は軍歌で、英霊を偲ぶには何よりでは…と思わせていただきました。

忠烈祠公園では、入口の灯籠には大東亜戦争忠烈祠と刻んであり、ここでも感動しました。

台北では、烏山頭（ウサントウ）別名八田ダムを見学に行きました。約80年前に作られたと教えて下さいました。日本人技師によって工事され、今ではお陰で米は年2回、また野菜は年中作付けが出来る。台湾国民は必ず訪れる地であると説明して下さいました。

台湾は、もともと中国領土であったが日清戦争後、日本が統治し、先の大戦等を経て今の台湾がある。けれども国がとった教育方針で年代によって愛日派、反日派、親日派と大きく分かれていると言っておられました。

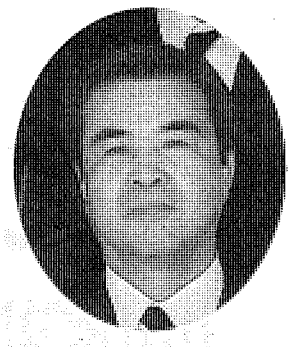
私の心の中では、今、尖閣諸島問題で中国と同じ行動を起こしているので、台湾も中国に近い国であるだろうと思い込んでいましたが、全く思い違いでした。逆に今の日本では薄れてきている国を想う心、他人を想う心等々が生き付いている社会ではないのかと思うばかりでした。

私心ですが、戦争はダメなものとの気持ちが何時しか戦没者も同じと、過去とするのが新しい道と思っていたように我心をしっかりと見つめ直すことが出来ました。

ガイドの頼さんは、「今回のコースは自分もガイド歴24年になるが、初めての所ばかり」と言っておられました。

英霊を忘れてはいけない。その先頭に立つのが遺族会でなければ台湾の国民の皆さんに負けてしまうのではと、今の時代を生きる私に強烈な思いの巡拝でした。

機会があれば再びこの地を訪ね、慰霊をすることをお約束申しあげます。



滋賀県議会議員
佐野　高典

私が議長をさせていただいていた平成25年1月20日から25日までの行程で、台湾・東シナ海方面戦跡慰霊巡拝が遺族会で企画され、議長として日程調整をさせていただき、前半の3日間のみでしたが参加させていただきました。

20日、関空を飛び立ち、その日の内に台湾の南端まで向かいました。台湾も新幹線が整備され、台北から新幹線で最南端にまで行くことが出来ました。その日は移動のみでありましたが、翌日は巡拝本番であります。

幸い好天に恵まれ、朝早くバシー洋上慰霊祭が行われました。海峡とは言え、太平洋からのうねりで波はかなりの高さであります。私は船には慣れていますので苦にはなりませんが、多くの皆さんは船酔い状態で気の毒でありました。

当初、バシー海峡での海戦による戦死者はさほど多くないと思っていましたが、私の認識不足でした。南方への輸送船の撃沈や海戦による犠牲者はかなり多くあったようです。

遺族の方々には荒れる洋上から英霊に対し「呼びかけ」を行っていただきました。

戦後70年近くの歳月が経過いたしますが、ご遺族の皆さんにとっては辛い厳しかった歳月だと推察を致します。式を終え次の巡拝地である潮音寺に向かいました。

この寺は、生存者の中嶋秀次氏が私財をなげうち、浄財を募り建立された寺であります。花を手向け、献灯をさせていただき、英霊の御霊に追悼の言葉を述べさせていただきました。

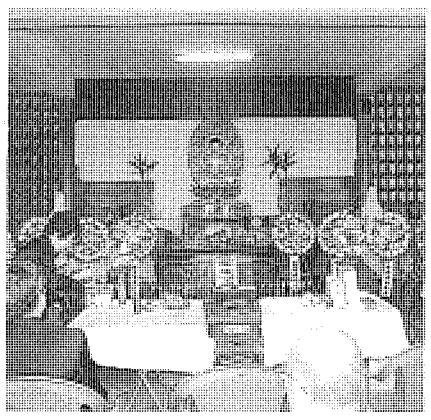
その後、地元の皆さんが御堂とされて管理いただいている保安堂で供養をさせていただきました。この保安堂は日本海軍軍艦をご神体とされ崇められています。

日中関係が良好でない状況ではありますが、台湾の皆さんは軍艦をご神体にされ、戦没者を今も追悼いただいていることに改めて感謝と敬意を表した次第です。

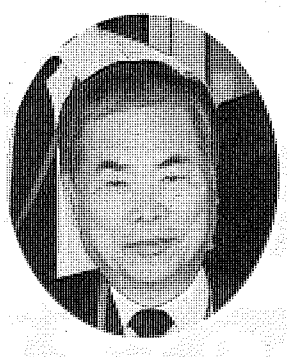
保安堂での慰霊後、24日東京で全国議長会が開催されるため、高雄市を後にして台北へ移動いたしました。

僅かな戦跡巡拝でありましたが、台湾の皆さんの心温まるおもてなしに心安らぐ思いがいたしました。そして、今もなお、先の大戦で亡くなられた英霊の遺骨収集は終わっていません。

日本は平和国家として繁栄して参りましたが、先人の尊い犠牲のもと、今日の平和や繁栄があることを私たちは忘れてはなりません。風化させることなくしっかりと次の世代に語り継ぎ、平和を希求することが私たちに課せられた使命だと思います。



潮音寺での追悼式



滋賀県議会議員
野田　藤雄

平成25年1月20日から25日まで、昨年度のフィリピン戦跡慰霊巡拝に続き2回目の海外戦跡慰霊巡拝に参加させていただき、改めて戦争の悲惨さを痛感いたしたところでございます。

台湾では、1944年4月以降に、台湾特別志願兵が編成され8万人もの台湾人が、日本兵として軍務に従事され、日本軍にとって大きな力となりましたが、台湾・東シナ海方面で、日本人と併せ3万人を超える尊い命が失われ、早や67年の歳月が過ぎ去りました。

さて、初日のバシー海峡での洋上慰霊祭は波が高く、船上で立っているのがやっとで、船酔いされた方が沢山おられましたが、海上に向かって必死の呼びかけをされていた姿が目に浮かんできます。その後下船し、潮音寺で追悼慰霊祭が行われました。

昼食後、高雄の保安堂に到着すると、爆竹等で地元の方たちの熱烈歓迎を受けました。ここで慰霊祭を執り行いその後、フルーツやお茶で歓待を受けました。また、この保安堂は、地元の方々が維持管理をされているという話をお聞きし、頭の下がる思いをいたしました。翌日は、宝覚寺等、次の日は林森公園等で慰霊祭を執り行いました。

保安堂での追悼の言葉でも申し上げましたが、私たちは戦争の惨禍を繰り返さないためにも、この地で生じた悲惨な歴史を風化させることなく若い世代に伝えていかなければなりません。

また、先の大戦で、尊い命を賭して祖国を守ろうと異国の地で奮闘された英霊に思いを致し、この国の平和と繁栄をしっかり築いていかなければなりません。このことを改めて胸に刻み、努めてまいります。

最後になりましたが、今回ご一緒させていただいた方々に貴重な体験をさせていただいたことに感謝申し上げますとともに、今後益々のご活躍をよろしくお願いいたします。私も、今後この種の催しに出来るだけ参加させていただく等、微力ながら頑張ってまいりますので今後とも宜しくお願いいたします。

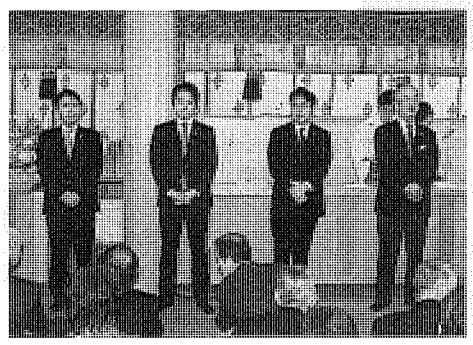
安らかなご冥福を祈念

第39回靖國神社昇殿参拝旅行

靖國での御霊との熱い出会いを胸に『第39回靖國神社昇殿参拝旅行』は、平成25年3月3日～4日に実施され、県下各地より518人の方々が参加されました。

参拝旅行は両日とも天候に恵まれた中、一日目は靖國神社参集殿に於いて、公私ともお忙しい中出席いただいた衆議院議員の上野賢一郎・武藤貴也・武村展英の各氏、富田博明滋賀県議会議員（甲賀市）中村功一英霊にこたえる会滋賀県副会長ほか、大岡敏孝・有村治子・水落敏栄各議員秘書を来賓に迎えてのセレモニーに続き、神社昇殿においてそれぞれの思いを胸に御霊と語り、安らかなご冥福を祈念されました。

今年はホテルでのくつろぎの時を大切にと、日本三大温泉として知られる熱海湾の海沿いに佇む『熱海温泉・後楽園ホテル』へと向かい、百万ドルの夜景を眺めて日頃の疲れを癒し、限られたひと時ではありましたが会員相互の親睦を深めていただきました。


靖國神社参集殿で挨拶する衆議院議員の皆さん

二日目は満開の熱海桜、熱海梅園の花々を車中から眺めながら、熱函道路、伊豆中央道を通って駿河湾に面した『三津シーパラダイス』でバンドウイルカの豪快なジャンプなどのショーをお楽しみいただきました。

帰路は焼津さかなセンターでの昼食とお買い物を済ませて、それぞれの旅の思い出を胸に、二日間の参拝旅行を無事終えることが出来ました。

ご参加いただいた皆様並びにお世話になりました各役員の皆様に紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

来年は昭和50年に始まった参拝旅行も、第40回を数えることとなりますので次回も奮ってご参加を頂き、靖國神社の昇殿でお会い出来ることを楽しみにしております。

（祭祀委員会（靖國）委員長　奥野義明）

靖國神社に参拝された守山市遺族会と衆議院議員の皆さん

感激と感動で涙とまらず

ボルネオ・マレー半島方面戦跡慰霊巡拝

父の眠る南方の島、ボルネオタワウ地区へ一度は行ってみたいと思っていたところ、戦跡慰霊巡拝が計画され、何をおいても行くことを決め、夫婦で参加させていただいた次第です。

11月2日、関空を出発して4日目ボルネオ島タワウ空港に降りた時、待ちに待った父の眠る地を踏むことが出来、暑さと共に感無量であった。父と2歳の時に別れて67年目にしてこの日が来るのをどれほど夢を見、今実現できたのです。本当に良い機会に恵まれたと思っています。

父達はこのような遠いところまで赤紙一枚で戦場に送られ、戦い続け、死に至ったのが残念でならない。タワウ地区で戦死された方の慰霊塔がどのような所にあるのか、山中にポツンと淋しく建っているのではないかと思っていた。しかし、想像以上に良い場所で手入れの行き届いた、気持ちの良いところで父が眠っていることをうれしく思いました。

慰霊祭には、各自が持参した水、酒他お供え、母の写真を供え、現地の暑い中で貴多成道ご住職のご丁重な読経回向を務めていただき、皆さんが焼香をするたびに涙の連続でした。67年目にしてお父さんに呼びかけ、自分と母の務めが果たせ感激と感動で涙が止まらず、私にとって思う存分お父さんと呼べたこと、語りかけられたことはほかに変えられない喜びであり、人生初めての忘れられない大きな思い出になりました。今現在、何不自由なく豊かな毎日の生活が出来ているのは戦場で命を落とされた方々のお陰と深く感謝をして次世代に言い伝えするのは私たちの役目だと思います。戦跡巡拝を計画していただいた役員の方々と同行参加していただいた方々に感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

（蒲生郡竜王町　北川一男）

ボルネオ・マレー半島方面戦跡慰霊巡拝に参加したみなさん

神棚を祀る意味 次世代へ

県護國神社　春の例大祭

快晴の空の下、一週間も早い満開の桜に迎えられた4月5日午前10時より、滋賀県護國神社の春季大祭が盛大に斎行された。当神社は、明治戊辰の役以来、西南の役、日清戦争、日露戦争から大東亜戦争に至る幾多の戦役、国事・国難に殉じられた本県出身の英霊34，750余柱を御祭神としてお祀りしている縁で、県下各地から、遺族会会員や関係者、地元彦根市選出の県議会議員、市議会議員など約700人が、早朝より参列した。

山本賢司宮司の御霊をお慰めする祝詞の奏上に始まり、神社本庁からの、献幣使が祝詞を述べられ、次いで松井尚之滋賀県遺族会長の祭文が厳粛に奏上された。引き続き多賀大社の舞人の〝浦安の舞〟が舞われ、参列者一同、ひとときの神事を堪能した。

最後に山本宮司の「総理・閣僚の靖國神社参拝」への強い願望が述べられ、一同大拍手のうちに春季大祭は終了した。

当日は、彦根を訪れた外国人や観光客が多数参拝する姿も見られ、境内は一日中賑わった。

山本宮司挨拶要旨

日本民族は自然と共に感性豊かな文化を育んできた。日本民族の永年性を伝えるものの一つに神棚をお祭りしている。

これは、由緒ある神社（氏神・伊勢・靖國・護國・近江・多賀等々）を自分の家へ迎え、拝むためのものでおれがそれである。神棚を祀ることの意味、行為を次世代へ伝えていってほしい。

幸いにも、今回二組の次世代が家族と一緒に参拝し、山本宮司の挨拶に応えたこととなった。

◆

平尾泰紀くん（近江八幡市八幡小学校3年）

学校では図工・工作が好きだ。妹と2人でスイミングに通っており10級のクラスです。克己（かつき）兄ちゃんは昨年知覧へ行っている。沖縄でなくなったおおじいちゃんのところへ家族6人そろってお参りに行くのを楽しみにしている。

平尾菜々美さん（近江八幡市八幡小学校1年）

スイミングは16級です。

北川尚輝くん（栗東市治田幼稚園年長組）

水泳教室はイルカクラスです。

北川真菜美さん（栗東市治田小学校5年）

98歳のおおばあちゃんは「今日は大祭やなアー」と言っていた。学校では体育が好きだ。中学1年の兄ちゃんと弟の3人で水泳教室に入っている。50mは泳げる。

（広報　原　幸男）

▶左側から平尾泰紀くん、祖母の登志江さん、平尾菜々美さん

▲左側から祖母の野村しげ子さん、北川尚輝くん、真菜美さん

さざなみ

歌集「こぶしの里」をおもう

彦根市遺族会　出口素子

平成25年3月27日彦根市笹尾町の坂下きり江さん（95歳）が天国へ旅立たれました。生前84歳（平成14年11月）の時に、歌集「こぶしの里」を発行されていたことを野口邦彦さんより聞き、ご本を一冊いただきました。

くしくもこの日は滋賀県護國神社の春季例大祭の時でした。早速読ませていただきました。206の歌が詠まれており、とても素晴らしいご本で感動いたしました。

苦しかったこと、楽しかったこと、ご苦労されたご様子が手に取るように分かり、また、今は亡き私の母とも重なり涙が止まりませんでした。歌集「こぶしの里」の序歌に古木さよ子先生が詠まれている4句に、今は亡き坂下きり江さんの一生が凝縮されているように思います。

序歌

◎こぶし咲く杣（そま）にひっそり佳き女は平和願いて真実（まこと）を歌う

◎征きしままの夫君恋いつつ一人娘も逝かしめ地獄をくぐり来し道

◎戦争未亡人と自ら歌い律し来しこの一巻の重みを拝す

◎諦観のはての潔さにそよぎいるこぶし大樹に陽の当り初む

おばあちゃんが好きだった歌をご遺族の方から聞かせていただきました。

◎母と書く漢字ひらがなかたかなで幾度なぞれぞ母は恋しき

◎植えしまま往きて再び還らざる夫に見せたきこの杉山を

◎山に嫁し山と心をふれ合いて山を恋して山にしずもる

▶坂下きり江さん95歳のお誕生日

あとがき

太平洋戦争で命を落とされた方々は、日本人だけでも300万人ときかされております。その頃の皆様と同様、私も戦争未亡人の一人として、あとに残った家族のために、父親の顔すら覚えていない一人娘のために、凛として生きねばならぬと誓って無我夢中で歩んで参りました。

10年が過ぎ、20年が過ぎ、お陰様で娘も結婚し二人の孫にも恵まれた頃、思いもよらぬことが待ち受けておりました。

昭和47年12月29日、一人娘が幼い子供二人を遺して他界したのです。31歳という若さの病死でした。只々泣くばかりの毎日でございましたが、ふと自分の罪深さに気付き、懺悔して仏様にお縋り申しました。

そんなある日のこと、テレビ番組短歌入門講座で清水はる様の入選歌に学ばせて頂きました。早速お電話を差し上げ、お目にかかり短歌の道へ導いていただき不思議なご縁を結ばせて頂きました。それ以来、短歌に関わっている間だけは悲しみを忘れ去ることが出来ました。清水様には計り難きご恩と、言い尽くせぬ縁を感じ有り難くお礼の申し上げようもございません。

また、小西久二郎先生には彦根市立図書館にて親切なご指導を頂きました。高岡悠紀子様は『好日』彦根支社の会に度々お誘い下さいました。

平成14年、私は満84歳を迎えることが出来ました。二人の孫も職に就き、婿も退職を迎え、ご先祖の山や田畑に従事し元気に暮らしております。私はといえば、勉強したい思いは強くとも忍び寄る老いはままならず、山に籠りがちの日々でございますが、月々の『好日』誌を楽しみに思いのままに歌に生かされ、幸せな今日この頃でございます。

とは言え、年を重ねる毎にわが身の衰えを感じるようになって参りました。ペンを持つことが出来る今、戦争の残酷さ、無念さ、そして何より多くの方々のご厚情を頂き、今この幸せがあるということを二人の孫に伝えたい、と言う気持ちが今回の歌集出版の思い切りになったのでございます。

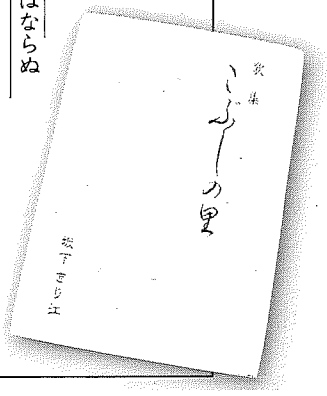
只々31文字に想いを綴ったに過ぎない歌ではありますが、愛しい孫達の世に戦争のない事の祈りであり、そして今の世の幸せを知らずに逝った舅、姑、夫、娘への鎮魂になれば…と思い、詠ませて頂きました。

『こぶしの里』の選歌や編集、そして題字や身に余る序歌も賜りました古木さよ子先生には心よりお礼申し上げます。月々選歌もして頂き、一方ならぬご縁を嬉しく思っております。

また、好日社米田京子先生はじめ皆様方にも感謝の思いで胸を熱くしております。出版につきましては、短歌の先輩であります岩根敏子様のサンライズ印刷にお願いすることが出来、心より安堵いたしました。

拙い歌集にて誠にお恥ずかしゅうございますが、ご清覧賜りますればこの上ない幸せでございます。

平成14年11月　坂下きり江



唯一人の出征

湖南市遺族会　奥村　喬

氏神に参拝し、「勝ってくる」と書いたメモを境内の桜に結び、二度とくぐることない鳥居を後にした僕は、旧中学3年の昭和19年5月（15歳）でした。

親に内緒で受験した陸軍少年兵です。親父は「誰にも送ってもらうな」

竹に日の丸を結び、一人家を出た玄関で母親だけが手を振ってくれた。国鉄石部駅のホームには隣村から大勢の見送り人。その真中に出征兵士が意気揚々と軍歌で旗を振っていた。僕はホームの隅でしょんぼり眺めていた。

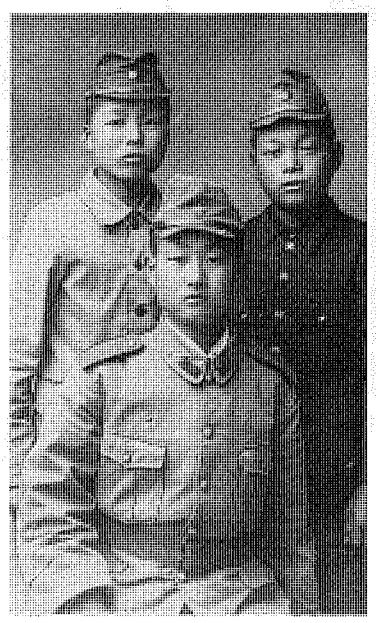
浜松の部隊には僕の他は親同伴の入隊でした。親父は軍隊の厳しさと後継ぎ長男の出征で心を痛めていたと思います。

その矢先、親父にも召集令状（44歳の老兵）が。即三重県津の連隊へ。数日後ビルマへ。インパール戦の援軍でしょうか？

その程遠いマングレーで戦死しました。死亡時間まで分かりながら、遺品はおろか遺骨も帰って来なかった。

遺族の積年の願いでありました平和祈念館がオープンして1年が経過しました。この3月長男夫婦が休日を利用して入場、見学して共に感嘆して帰ってきました。

その展示の中に僕の戦争体験がありました。あの戦争から70年、そして核家族化の現在身内の戦争体験すら継承できない昨今、祈念館での貴重な経験は何物にも変え難い我家の大きな財産となりました。



出征当時の奥村喬さん（写真中央）

平和祈念館の入場者は団体が主で、個人は極端に少ないようです。この「遺族の友」の発行毎に会館の展示、講演等の案内コーナーを設けて、入場者の増えることを念願するものです。

頭部が欠けた地蔵さん戦争の悲惨さ伝える

守山市遺族会長　山川芳志郎

空襲警報発令。敵機襲来を知らせるけたたましいサイレンの音。6歳の私は祖母に手をひかれ、急いで防空壕に入った。ブーンというとても大きなプロペラ音。それも本当に低い所を飛んでいる。私は防空壕の入口に置いてある竹やりを持って、飛行機を突いてやろうと思ったくらいだった。

私はヘルメットをかぶった飛行士2人の顔が見えたが、今でもその顔を覚えている。その直後守山駅でとんでもない事故が起こったのである。

それは、昭和20年7月30日の午後4時頃、米軍の戦闘機4機がひし形の編隊を組んで急降下し、守山駅を出発したばかりの列車を襲撃。列車は駅から50メートル程の所で動かなくなった。この列車には1両目から4両目まで兵隊さんが乗っており、これを狙ったらしい。

多くの死傷者が出て守山駅周辺は大混乱となった。当時の様子を知る女性は「いたる所に血が流れ、生臭く、人のうめき声や叫び声が聞こえ、この世の地獄を見ているようで、怖くて震えがきて動けなかった」と語っておられた。

守山駅近くに吉身町の共同墓地がある。列車が米軍の襲撃を受けた際、流れ弾が当たり写真のように石の六躰地蔵さんの頭部が全て欠けている。墓地の管理人は「修復しないのは戦争の悲惨さを伝えるため痛いやろうけど辛抱してもらっているのや」と語っておられた。

また、守山駅近くに当時のままの民家が残っている。その家の天井や軒下に被弾した穴や、筋が9箇所残っており、凄さを語っている。

また、死亡した人の中に引き取り手がなかった人は、私の住む共同墓地の片隅に埋葬されたと長老から聞いたが、その後全ての遺骨を起こし郷里に持って帰られたかは定かでない。今ではその近くに戦死者の石碑がずらっと並び、埋葬された所を踏みながら参っている状態で、何か申し訳ない気持ちである。

守山市遺族会では、小学生や中学生にこれらの写真を見せて、当時の悲劇・悲惨さ・惨たらしさを語り伝えている。特に小・中学生の修学旅行を控えた学年から講話の要請を多く受けている。

守山北中学校の生徒は自転車で現地を訪ね、石の地蔵さんの頭部が欠けているのを見て「機関銃の威力の凄さを知りました。これが人に当たればひとたまりもありませんね」と語っていた。また、毎年開催される8月6日の「平和を誓う集い」でも市民対象にパネルを見てもらい、守山駅の悲惨な出来事、悲劇を伝え、平和の大切さを訴えている。これからもずっと続けていきたい。

戦争の悲惨さを今も伝える六躰地蔵さん

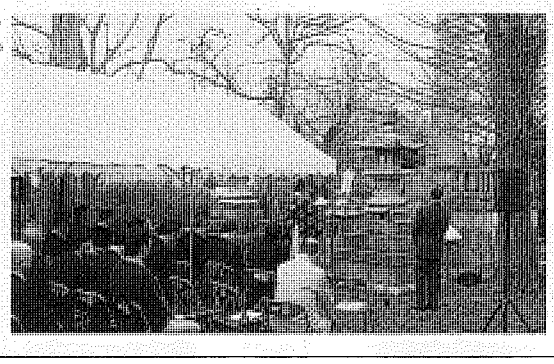
鳥居本忠魂碑の慰霊祭

彦根市鳥居本遺族会　出口素子

お彼岸中日の3月20日、鳥居本学区自治連合会主催による戦没者追悼慰霊祭が行われました。

忠魂碑は明治40年、今から106年前に建立されており、先の幾度もの大戦で犠牲になられた鳥居本出身の172柱の英霊が祀られています。春は桜やつつじ、秋には紅葉に囲まれた素敵な公園です。

今年は西田惣次郎彦根市遺族会長にも参拝いただきました。この公園は、今も学区民により管理をしていただき、春には神式で、秋には仏式により慰霊祭を行っていることに遺族の一人として感謝いたしております。



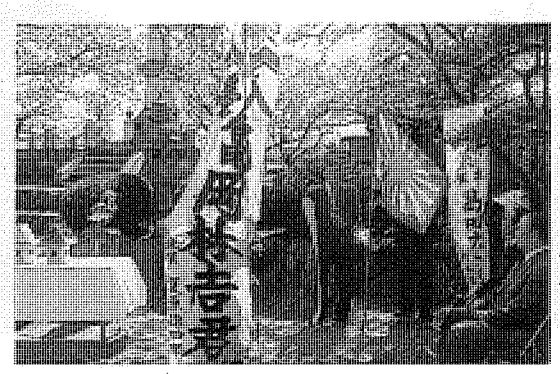
ふるさとの鳥居本をいつまでも見守って下さい、と願いつつお詣りさせていただきました。

地域で草の根対策を！

彦根市河瀬学区遺族会長　夏川嘉一郎

戦後、早や68年が過ぎ去り、戦争体験が極端に風化してゆく中、我が国が近代化の波へ向かう中で遭遇した数々の戦争、特にあの未曾有の犠牲を払った先の大戦の体験を、決して無駄にすべきではない、とする「声」の高まり即ち、未来への道をより正しく歩むために、正確な歴史教育の必要性が求められる昨今であります。

このような時代背景のもと、私ども河瀬学区遺族会として、小さくとも歴史教育の趣旨に沿ったことができないものかと、常々会員間で話し合っていたところ、図らずも2人の会員から「父の出征時に使用した旗類（のぼり旗・㊟旭日旗等数点）が、家に残っている」との連絡を受けました。これは使えると判断して早速お借りし、恒例になっている学区内戦没者弔霊追悼式典の場で披露させていただくことと致しました。



式典に参列された市議会議員、連合自治会長、各町自治会長、各種団体長、遺族会員、一般の方々にはそれぞれ「歴史教育に繋がる何か？」を感じていただけたのではないでしょうか。

今後も機会があれば、このような「試み」を実践していきたいと考えております。

（尚、披露させていただいた遺品は全て、滋賀県平和祈念館へ寄進される予定。）

最後に、当学区遺族会の概要を紹介します。会員101人、役員24人、年2回戦没者弔霊追悼式（仏式、神式、隔年交互）を実施しています。

㊟旭日旗は海軍旗ではありません

おかあさんを訪ねて

竹井　静さん（高島市）

祝百歳・詠い続けた歌集

昨年の正月にお訪ねした99歳の元気なお母さんが、満100歳を迎えてますますお元気な様子を過日の日刊紙に報道されたので、許諾をとり転載する。　（広報　谷口晋子）

祝百歳 大祖母の歌集

高島・竹井さん 戦争で夫失い、5人の子育て

憲法9条いつか詠みたい

「こんな本になるの」。出来上がったカバー装幅を、出版予定と同サイズ、分厚さの本に包装し、ポーズをとる竹井静さん＝高島市新旭町安井川

■　平成25年5月28日付朝日新聞（朝刊）滋賀版掲載

水原　千代さん（近江八幡市）

女性部活動に〝ありがとう！〟

平成25年2月、安土町の水原一夫様のお母さん「水原千代様」より、日頃の遺族会諸事業や女性部活動に対して「感謝」の気持ちとして、多大なご寄付を賜りました。

高齢化に伴い、会員の減少や後継者の育成等々課題も多い中、水原千代様からのお手紙は女性部一同の大きな励ましとなり、更なる活動展開を誓うきっかけとなりました。多額のご寄付も有効に使わせていただこうと思っています。ありがとうございました。

水原千代様には、今後ますますご自愛をいただき、お元気で日々をお暮らし下さいますようご祈念申し上げます。お手紙をご披露させていただきお礼の言葉とさせていただきます。

（女性委員会　委員長　的場恵美子）

女性部の皆様より、毎年励ましのお手紙を頂きありがとうございます。御礼のお手紙と薄謝をお送りさせていただきます。

女学校卒業後、芦屋で塩踏奉公をいたして居りました時、夫になる五郎作さんが、大東亜戦争で金鵄勲章を授かり還って来られました。その好青年と縁談が持ち上がり、鍬や鎌を持ったことのない農家に嫁ぎ、一男（一夫）を儲けました。（女の子であれば、まり子と命名しておりました）その年の暮れ、神棚のお供えなど、お正月の準備中に戦死の訃報を聞かされ、我が家は暗闇の底に叩きつけられました。涙かれるまで泣きました。

50数人の未亡人会員さんと交流させていただき、故守田厚子さんの励ましや生きる希望の言葉を頂きました。安土では、昨年末に亡くなられました井上あやさんと、日野での会議に息子とハイヤーで欠かさず参加させていただき多くの友が出来ました。

護國神社、膳所、靖國の参拝や運動会にも欠かさず参加させていただけることに喜び、感謝をいたしてまいりました。婦人部も高齢にて、最後の靖國参拝にも故人あやさんと家族同様にお参りさせていただくことができ、楽しい思い出が今も脳裏に残ります。体調を崩されたと聞きお見舞いに伺ったときは、ネコと戯れられておられましたので、安心して帰ってまいりました。長きにわたって婦人部長としてご活躍、ご指導いただきありがとうございました。ご主人の元で楽しく、安らかにお眠り下さい。合掌。

やがて私も72年もの間不自由をかけた夫の元へ旅立つ日が来ると思いますが、息子や孫、曾孫に囲まれ、嫁にも手厚く思いをかけられているので、今少しの間、土産話の用意が整うまで置いてもらおうかなあと、お仏壇に手を合わせる日課でございます。

当時は、戦争がどれほど憎いと思ったことか。戦争がなければ二人で歩けた人生。私たちや戦争遺児がいる限り、戦争は終わっていない。私たちの目の黒い間に総理大臣や閣僚、堂々と靖國参拝していただきたい。そうでなければ、夫は犬死だと悔やまれてなりません。

女は我慢で花が咲くと教えて下さった夫の父の、今年で五十回忌法要をさせていただく事が出来て感謝の念でいっぱいです。

最後に、遺族会の益々のご発展と遺児の皆々さまのご多幸を念じます。

平成25年一月30日

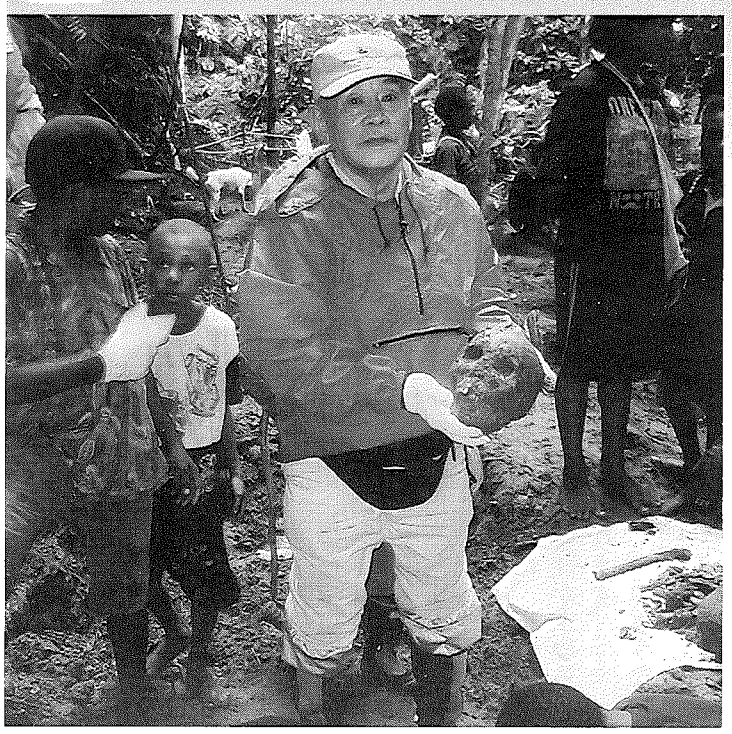
近江八幡市安土町遺族会

婦人部　水原千代（95歳）

政府主催

東部ニューギニア戦没者遺骨帰還団に参加して

彦根市遺族会　北川國男



平成25年1月16日～31日の16日間、政府主催の東部ニューギニア戦没者遺骨帰還団の一員として参加した。滋賀県から当事業に参加するのは、平成17年以降2回目のことである。

1月16日、私たち遺族会員6人は、左腕に日本国旗のマークがついた制服を着用し、靖國神社に集合した。お祓いを受け、揃って成田空港へ向かった。

成田空港では、結団式が行われ、派遣団は厚生労働省（3人）、日本遺族会（6人）、戦友遺族会（2人）、ＪＹＭＡ（1人）の計12人で、団長から派遣団の任務と目的が説明された。

その内容は、

1．既に収容され、現地で保管されている遺骨について、日本人戦没者と特定した場合は、現地で焼骨し日本へ持ち帰る。

2．東セピック州ボイキン村の埋葬地で遺骨収容を実施し、日本人戦没者の遺骨と特定した場合は、現地で焼骨し日本へ持ち帰る。

3．サラワケット周辺はヘリコプターで、モロベ州へはボートでクワリン村へ渡り、遺骨調査を実施する。

4．その他の派遣地周辺において、新たな情報を得た場合は、現地で焼骨し、日本へ持ち帰る。

私から見れば、息子のような若い団長であるが、しっかりした人だと思った。

成田空港21時20分発の飛行機で、オーストラリアのケアンズへ向かう。17日朝6時にケアンズ着。12時発の飛行機でポートモレスビー（ニューギニア）へ向かう。ポートモレスビーに着けば、着用してきた日本の下着ではとても暑い。ホテルで夏用の下着に着替え荷物を預け、18時日本大使館の官邸に向かう。

日本大使館では橋大使に夕食をご馳走していただき、ニューギニアでの生活状況等のお話を伺う。大使は単身赴任で、2年半になるとのこと。

まだ戦争の事を忘れていない

18日は、現地在住の通訳野沢氏と戦争博物館の遺骨鑑定人を乗車させ、国立博物館に向かった。

団長が、通訳を通じ挨拶をする。

館長からは、「あの戦争は、私たちの資源が原因である。多くの国民に迷惑をかけた。人間と人間の戦いで私たちの村も二つに割れ、現地人同士の戦いになってしまった。オーストラリアやアメリカも遺骨収容活動をしておられるが、パプアの海岸をはじめ、それぞれの現地の人たちは、まだ戦争のことを忘れてはいない。遺骨は持って帰ってもらうが、軍艦等の物品はニューギニア国の物であると考えている。しかし、遺留品が発見されれば、家族の元に帰してあげたいと考えている。」

私は、その館長に握手を求め、それを現地の新聞記者が撮影し、翌日の新聞に大きく写真が掲載された。その後、飛行場へ行くが、3～4時間待てど飛行機は来ない。夕刻になり「向かう先の飛行場の電気が消えるため、本日の飛行機は飛ばない」との説明があり、ホテルへ戻ったのは20時20分となってしまった。

父の戦死地へ

19日、朝2時30分起床、3時集合で、再び飛行場へ向かう。5時発の飛行機でマダンへ。マダンで乗り換え6時発の飛行機でウエワクへと向かった。ウエワクは私の父の戦死地と聞いているので心が動揺する。私が生後3ヶ月の時、父は29歳で戦死したと聞いている。

ウエワクのホテルに荷物を置き、作業服に着替え、長靴を履く。四輪駆動車3台に分乗し、護衛の現地の警官2人も銃を持ち同乗して、密林の中、川の中を車の行ける所まで行くのである。

車は、何回となくスタックする度に押しながら行くも、倒木や巨石で車で進むのは無理と判断し、徒歩行軍となった。この活動を三日間続けた。

危険を避けるため、私たち一人に現地人一人が付いてくれる。現地の人は素足であるが、密林の中、川の中も山刀を振り枝を切りながら速く歩く。ボイキン村に着き、現地人の情報の場所を団長の指示した山側から順次掘った。

涙々で掘り上げた頭骨を胸に

念願の遺骨が出た。日本軍の「飯合」「水筒」お守りとみられる「高野山」と書かれたプラスチックか象牙の様なもので作られた「首飾り」。私の父と思って涙々で現地人と共に丁寧に掘った。掘り上げた頭骨を胸に抱き写真を撮った。このような作業を三日間続けた。

三日目の作業開始直後に、私たちを案内した部族と別の部族が現れ、部族間のもめ事が発生した。昨日の作業途中の一体のみ発掘し、団長の指示で引き揚げることとなった。

午後は、ホテルの庭で持ち帰った遺骨の清掃作業を行った。頭骨の泥を取り、大腿骨の腱を取る等の作業で焼却しやすくするのである。その遺骨を鑑定士は、日本人か外国人かの鑑定をしている。

私たちは、翌日の焼骨式の準備作業に入った。

焼骨式

22日、ウエワクホテルの庭で焼骨式が行われる。同行した仲間より何故か早く目覚める。朝食後、ホテルの庭に現地人が持参してくれた枯木を積み上げ布を敷き、持ち帰った御遺骨を乗せ火葬するのである。

後方の南太平洋側の金網には日本国旗が掲げられ、焼骨式が始まった。

式次第は次の通りで、司会を務めた厚労省の片山氏の声が日本に届けとばかりの大きな声で胸に染みた。

一　開式の辞
二　黙祷
三　経過報告（厚労省の団長の言葉）
四　献花
五　拝礼
六　点火
七　閉式の辞

以上の様に厳粛に行われ、団長の心温まる追悼の言葉でまた涙である。

出る涙に負けぬよう大きな声で唱えた「般若心教」

式が終了した後、団長に許可を得て、京都の方と持参した和袈裟をかけ、数珠を持ち、出る涙に負けないように大きな声で「般若心経」を唱えた。その後、火葬の火が消えるのを待ち、遺骨を拾い、骨袋に入れ3個の骨箱に収め、部屋に安置した。

23日、5時起床。6時10分ウエワク発の飛行機にて8時20分ポートモレスビー着。日本大使館へ昨日の遺骨を安置させていただき、12時30分発の飛行機でラエに向かう。

13時15分ラエ到着後、モロベ州の政府を表敬し、ラエのホテルで宿泊する。

24日、マイクロバス1台と荷物車1台で通訳の野沢氏宅へ向かう。野沢氏宅には、昨年10月に「未送還遺骨情報収集事業」で訪問された3人の方が、村民から受理した遺骨を保管されている。その洗骨作業を3日間行うのである。

一方、青木団長と野沢氏はカラワケットへ向けヘリコプターによる現地調査に、25日から26日には、青木団長、野沢氏、横山氏はクワリンの洞窟調査に行き、民泊して行動をとる。

27日、焼骨式の準備作業を行った。

28日、モロベ州ラエの野沢氏宅の広い空き地で焼骨式と追悼式が行われ、日本大使館から来賓として、松村書記官が来て下さった。

私は、「スモールゴクラク」とい

う名の花輪を「滋賀県知事」の名札を付けて献花した。また、父がニューギニアで戦死した同級生の方、兄さんが戦死された弟妹さんから預かった供物や手紙を供えた。

追悼式の次第は、次の様に行われた。

一　開式の辞
二　黙祷
三　追悼の辞（青木団長、日本遺族会代表等、5人の各代表の方々が追悼文を読まれた）
四　献花（式に参加した者全員と、見学に来ていた村人も献花してくれた）
五　閉式の辞

終了後、今回も団長の許可を得て、「般若心経」を京都の方と二人で涙々で唱えた。

昼食は、野沢氏の奥様（現地人）や、近所の奥様達が冷やしうどん・冷やしそば・サンドイッチ・現地の多くの果物でもてなして下さった。

子どもたちとのふれあい

昼食後、焼骨が冷えるのを待つ間は、集まった多くの子どもたちに日本語を教えたり、キャンディを上げたり、しばしの休憩を楽しんだ。私は、枯枝を腰に差し、子どもたちを集め、習っている「居合抜き」をして見せた。それを見ていた二人の警察官が「貴方は日本の侍か？」と聞いてきたので「イエスサー　アイアム　ア　ジャパニーズサムライNo.2」と答えてしまった。警官は、首を振り両手を広げていた。「居合道二段」と言うつもりが、日本で二番目に強い武士と思ったのだろう。

その後、焼骨を終え、遺骨を袋に集めホテルへ引き上げる。

今回、各地での集骨結果は次の通りである。

ボイキン　14柱
サンタサン州　9柱
東セピック州　14柱
モロベ州　47柱
マダン州　11柱
合計95柱

これを私たち遺児の人数（6人）分に、6箱に分納した。

29日、7時30分、ラエ発の飛行機でポートモレスビーへ向かう。8時15分、ポートモレスビー着後、日本大使館へ骨箱を持参し、計6箱の遺骨証明書の発行と、遺骨箱の封印をしていただいた。空港での税関証明である。

30日、ポートモレスビーを9時35分発の飛行機が離陸した時、窓から望めるパプアニューギニアの青い島、美しい海、「また遺骨をお迎えに来ますよ！」と心の中で叫んでいた。オーストラリアのケアンズに着いたのは11時で、団長より13時迄の自由時間が与えられた。

ケアンズの空港待合室ロビーには、新婚旅行の日本人のカップルや白人が多く、ニューギニアと違って美しい服装の人ばかりである。

帰国の途

13時20分ケアンズ発の飛行機で無事成田空港に到着した。成田空港には、多くの厚労省の方々が迎えに来て下さっていた。空港からは、厚労省手配の貸し切りバスで都内のホテルへ22時30分着。

31日、ホテルで朝食後、遺骨引き渡し式の練習を遺児6人が行い、バスに乗車する。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑には、式場の準備がなされ、総理大臣・官房長官の花輪や多くの遺族の方々が迎えて下さった。

自衛隊の吹奏楽団の演奏で、遺骨引き渡し式が開催された。私たち遺児6人が、遺骨箱を胸に持ち、団長の力強い立派な挨拶の後、左足から一歩前に出ると、厚労省の方が遺骨箱を受け取り、一人ずつ墓苑に設けられた祭壇へと進み、遺骨箱を整然と置いていかれるのである。その後、多くの参列者が、菊の花を上げて下さった。また涙々である。引き渡し式終了後は、解団式である。

団長が私たちに向かって「現地では立派に行動したこと、若い団長に対して統一した行動をとったこと、お礼とご苦労様」と解団の報告がなされた。

その後、私たちは靖國神社へ行き、多くの遺族の方々への報告会である。ニューギニア戦線から生存した元日本兵、10人の老人達も最前列に座っていらっしゃる。今回のニューギニアでの活動状況や感想、父の部隊名を一人ずつ報告するのである。

戦争の悲惨さを後世に

私は、現地で活動した状況や、掘り起こした御遺骨の様子が頭に浮かび、涙と嗚咽で明確な話が出来なかった。

最後に、東部ニューギニアからの生還者でもある「東部ニューギニア戦友遺族会」の堀江会長（96歳）が感謝状を授与して下さった。この賞状は、父の写真の横に掛け、事あるたびに子ども達や孫達に戦争の悲惨さを話そうと思っている。

ニューギニアで戦死された12万7千人の方々のご冥福をお祈りしてペンを置く。

次世代
戦跡訪問研修報告

切々たる平和への訴え　心に

鹿児島方面42人　沖縄方面27人参加

■鹿児島方面

第12回目となった鹿児島方面の戦跡訪問研修は、春休みが始まったばかりの3月24日から26日まで、小学生39人、中学生3人の計42人が参加。3日間とも好天気に恵まれ、鹿児島では通過し終える桜前線に直面し、花吹雪と菜の花の満開を随所で見ることが出来ました。

大阪南港を5時に出た大型客船「さんふらわあ」では、高校野球の応援から帰る鹿児島尚志館高校の生徒と一緒でしたが、彼らのマナーの良さに感心させられました。

翌朝9時に志布志港で下船した一行は、噴煙を上げる桜島を右に左に見上げながら、バスで主目的の知覧に到着。午後1時過ぎから知覧観音堂で特攻隊として散華された多くの隊員の慰霊式典を行いました。黙祷の後、井上秀次団長と参加者代表の古川智葉さん（愛東中学校2年）が追悼の言葉を捧げました。この後、特攻平和会館を見学し、富屋食堂では特攻の母鳥浜トメさんのお孫さんからお話しを聞き、感激の涙をもらいました。

知覧観音堂で慰霊式典を行った次世代（42人）の皆さん

3日目は、比島戦没者慰霊の碑・万世特攻平和祈念館・維新ふるさと館を見学しました。バスの中や見学地のガイドに熱心に耳を傾け、メモを取り、誰もが学習の姿勢を終始崩さず行動できたと思います。インフルエンザにたたられて急に参加できない人があり残念でしたが、一夜の船旅も1時間の空の旅もみんな体調を崩さず、元気に学習の旅を終えられたことをうれしく思います。

■沖縄方面

第3回目を迎えた沖縄方面の戦跡訪問研修は、3月27日から29日まで、中学生22人、高校生5人の計27人が参加。今年度は、来賓として滋賀県平和祈念館から林耕平指導主事の参加をいただきました。

天気予報が更新されるたびに悪くなっていく中、早朝に県内を発った一行は11時に予定通り伊丹空港を離陸。しかし、思いがけない事件が一行を待ち構えていました。種子島上空から飛行機は伊丹空港へUターンすることになったのです。

先に那覇空港へ下りた乗客の手荷物から所持禁止のハサミが発覚し、保安検査がやり直されるという事件によるものです。この影響で、那覇到着が4時間も遅れて、初日は宿泊先に入るのが精一杯でしたが、夜には林指導主事さんから講義を受け、しっかり平和の学習が出来ました。

2日目から行程を変えての戦跡訪問研修となりました。近江の塔前での慰霊式では、そびえたつ塔前に用意されたテントの中で、黙祷の後、喪章を付けた一行は厳粛に座り、服部清和団長と青木萌さん（立命館守山高校2年）の追悼のことばが述べられました。このあと、この方面の県内1689柱に菊の花と郷土の歌「ふるさと」を捧げました。続いて平和祈念資料館とアブチラガマを見学し、ひめゆり平和祈念資料館では元ひめゆり部隊であった大見祥子さんの切々たる平和への訴えを聞きました。

「近江の塔」慰霊式に臨んだ次世代（27人）の皆さん

3日目は雨にたたられながらも、海軍司令部壕跡と対馬丸記念館を見学して空路無事帰着。思いがけないトラブルで嘉数高地と中城城跡を訪問できなかったですが、旅の間、参加者全員真剣に学習してくれて、よき旅であったと思います。

（次世代委員会
委員長　北村哲雄）

次世代戦跡訪問研修

尊い命 粗末にしない

立命館守山高校2年　青木　萌

「戦争は絶対にしてはいけない」や「戦争は悲惨」などと言う言葉は今までに何度も聞いたことがあるし、17年間心に刻んできたつもりだ。しかし、今回の訪問で、私はその言葉の本当の意味について知ることとなった。

今回の沖縄訪問で一番印象に残った場所は「糸数アブチラガマ」だ。ガマは住民や兵士の避難場所や病院として使われたと学んだ。病院として使われるぐらいだから、広くて、光が入ってきて明るいものだろうと思ってガマに入った。中に入ると最初に「ぴちゃぴちゃ」という音が聞こえてきた。そして肩や腕に滴がしたたり落ちてきたのを感じた。そこは私が想像したような場所とあまりにもかけ離れた場所だったのだ。

何よりも驚いたのはガマの暗さだった。誘導員の方の合図で懐中電灯を皆一斉に消すと、目の前にあるはずの指が見えなくなってしまうほどだった。暗い場所が苦手な私は、早く地上に出たいと泣きそうになった。戦争中にそこにいた兵士や住民の方々が、どんな気持ちだったのか身にしみた。ガマの中では死にたくない。せめて地上に出てから死ぬと言い続け、生き延びた兵士がいると聞いたが、その兵士の気持ちが痛いほどよくわかった。

様々な方の貴重なお話を聞いて、戦争について考えた時に、命を大切にしなくてはいけないということを強く感じた。沖縄の言葉で「命どぅ宝（ぬちどぅたから）」という言葉がある。「命こそが大切」という意味だ。私は、尊い一つしかない命を粗末にはしたくないと思う。ところが、今私たちが住む日本では自殺する人が増えてきている。私は、そんな命を軽く扱う人たちに今回学んだことを話したい。そうすれば自殺というふざけた行為を二度としようとは思わないだろう。

今回の沖縄訪問で、今まで私たちは戦争を他人事のように感じていて、あまり戦争について深く考えていなかったと実感した。訪問後、私は戦争についての本で読んでみたり、祖母に戦争について話を聞いたりと、戦争についてより深く学ぶようになった。しかし、私のように「戦争は絶対にしてはいけない」と言う言葉だけ覚え、実際「戦争」というものについて知らない人は世の中にたくさんいるだろう。このままでは「戦争を絶対にしてはいけない」という言葉は、ただの言葉としてしか残らなくなってしまうだろう。

戦争から60年余りがたち、戦争を経験した人が少なくなってきている。それは同時に、戦争の悲惨さや、大切な人を失う悲しさなどを伝えられる人がいなくなってしまう。私は、そんな方々の代わりに戦争について、子どもの世代、孫の世代へとしっかりと伝えられるように、これからも戦争についてどんどん学んでいきたいと思う。

特攻隊の人々の思い

栗東市立金勝小学校6年　朝倉佳紀

ぼくは、3月24日～26日に鹿児島の戦跡訪問に行きました。知覧特攻平和会館や万世特攻平和祈念館、ホタル館に行きました。

知覧特攻平和会館や万世特攻平和祈念館には、零戦や特攻隊の一人ひとりの写真、遺書が展示してありました。日本は戦況が悪くなり、日本軍は、多くの飛行機と未熟な飛行兵で戦果を上げるにはどうしたらよいか？

そこで考え出されたのが、爆弾を抱えて搭乗機ごと突っ込む特攻隊が編成されました。これが神風特別攻撃隊です。生きて還ることのない特攻隊員は17才～24才くらいの若者ばかりでした。

祈念館には、一人ひとりの特攻隊員の写真が展示されてありました。ぼくは、この写真を見て本当にこの人たち一人ひとりが特攻隊として亡くなったんだなぁと実感しました。そして、写真の人、一人ひとりに家族や友達がいたと思います。夢もあったと思います。一人ひとりの人間のそれぞれの人生が、一瞬で亡くなるのは本当にざんこくなことだと思います。そして、遺書も展示してありました。家族へあてた遺書が多かったです。遺書には、「ありがとう」「国のためにがんばって行ってきます」などと書かれていました。家族やふるさととひきさかれるつらさをたえて、国を守るために出撃していった一人ひとりの思いを深く心に刻みたいと思います。

最後に、国を守るために亡くなった多くの人のことを決して忘れてはいけないと思います。そして、二度と戦争をくり返してはならないと思います。

靖國参拝応募作品

滋賀県遺族会靖國神社参拝の旅「短歌」「俳句」募集は今回で3回目となるが、今回も多くの皆さんから感動の作品を寄せていただいた。短歌選者、俳句選者それぞれから添削と総評を受け、今回と次回（平成25年10月発行予定）に分けて掲載する。

なお、別掲載のとおり、靖國神社参拝には参加できないが「百年の生」短歌集を自費出版された竹井静さん、歌集「こぶしの里」を発行された坂下きり江さん、入院加療中にもかかわらず参拝に向かう子息へ応募作品短歌を託された森川瀧江さん等々、歌を愛する遺族のみなさんが沢山おられることは、遺族会諸事業の遂行に大きく貢献しているものと確信する。

（広報委員会）

俳句

奥野　きぬ・選

春浅し神前深く頭垂れ
満開の熱海の花に父偲ぶ
（愛荘町）前田いそ

忘れ得ぬ花の社頭の御紋章
詣で終え花の社頭に誓うこと
（湖南市）植西輝子

靖國の父に待たるる春遅々と
粛々と進む拝殿春寒し
（竜王町）大西初枝

春愁や秘史永遠に遊就館
春光や大技小技イルカショー
（大津市）原田政子

面影をとどめし熱海花の宵
春休み孫に見せたしイルカショー
（高島市）岸田孝一

【総評】

今回も厚かましながら選をさせていただきました。

どの方も一生懸命作られた御様子が伺われます。

俳句はいつも申し上げているのですが、季語が必要ですので、必ず季節の言葉を入れていただきますように。ときめきがありましたら、一句、また一句作られると楽しいと思います。毎日の生活の中で折に触れ目についたもの、感じたことを句にして下さい。ますますの御健吟をお祈り申し上げます。

短歌

母坪みち代・選

梅花咲く靖國の社に参りし吾によくぞ来たれと伯父の声聴く
咲き誇る梅花の靖國参り来て近況伝え伯父と語らう
（甲賀市）田畑啓之助

この社に神御座すやと木々見れば微笑む父は梅枝に座せり
団参を父と約して先の春膝下の慈愛求め又来む
（愛荘町）土田幸夫

大鳥居くぐれば父待つ昇殿へ母の分まで今年も逢いに
昇殿で心静かに祈る時偲ぶ面影絆は強く
（米原市）藤田紀代

生かされて御霊に感謝古希の春英霊のみこころ次世代に伝えむ
（竜王町）堀井平次郎

靖國の宮に鎮座す英霊の水面に映えて往時偲ばむ
幼の日父母にまつわり春まつり在りし日偲ぶ吾は喜寿なり
（野洲市）野路嘉久

靖國の遊就館の父に逢い喜寿なる我は心安らぐ
赤紙で國の為にと戦死した父は靖國神と祀られ
（長浜市）山根富士子

靖國の兄の涙のその重さ偲ぶわれらの励みとす
寒さ堪えしシベリアの國収容所帰り叶わず兄は逝きたり
（彦根市）辰巳拓夫

【総評】

歌を詠むことに向き合われる皆さんに共感しながら、私なりに書き加えたり削ったりさせていただきました。

日常の暮らしの中でも一首詠む習慣をつけられたら如何でしょうか。

作者の気持ちになって読ませていただくよう努力しました。

子どもが親を、親が子どもを思う気持ちを実感します・これからもご自分の気持ちを短歌一首に表現していただきたいです。

靖國の桜（はな）と散りし夫（ひと）がいる
良き子のこせし我は幸（しあわ）せ
（大津市）森川瀧江

お母さんの森川瀧江さんは大津市民病院の緩和ケア病棟に入院加療中の平成25年3月、次男の森川学さんの靖國神社参拝に際して「靖國参拝の短歌・俳句応募用紙」に一首の短歌を詠み託されましたが、残念にも翌4月16日に98歳の往生を遂げられました。ご冥福をお祈りいたします。